



給食だより 1月号

ひのしりつひのだいさんしょうがっこう
日野市立日野第三小学校

明けましておめでとうございます。早いもので、今年度最後の学期に入りました。

本格的な寒さを迎えており、風邪やインフルエンザ、胃腸炎等を含む感染症が流行する時期でもありますので、体調管理には気を付けましょう。また、年末年始の行事などで、生活リズムが崩れてしまったという人はいませんか？生活リズムを正すには、「早寝・早起き・朝ごはん」を実行することが一番です。体調を整えて、元気に新学期を始めましょう。

全国学校給食週間が始まります ～1月24日から30日まで～

☞ 学校給食の始まり

学校給食は、明治22年、山形県鶴岡町（現在の鶴岡市）にある私立忠愛小学校で、家庭の事情でお弁当が持てこられない子供たちのために、無料で食事を提供したことが始まりとされています。

その後、学校給食は、全国で実施されるようになりましたが、途中、戦争による食料不足で中止されてしまいました。

☞ 全国学校給食週間とは

戦争が終わり、子供たちの栄養不足を改善するため、外国などからの援助によって学校給食が再開されました。昭和21年1月24日に新しい学校給食が始まったことから、この日を「学校給食感謝の日」としましたが、冬休みに入ってしまうため、一か月後の1月24日からの一週間を「全国学校給食週間」とすることに決められました。

☞ 学校給食の役割

日本で、学校給食が始まったのも、戦後再開されたのも、子供たちを飢えから救うためでした。しかし、近年では、食べることが困難だった時代から大きく様変わりし、偏った栄養摂取をはじめ、肥満ややせ、生活習慣病の増加など、子供たちの健康状態が大変心配されています。このことから、現在では、バランスのよい食事のお手本として、「学校給食は生きた教材」としての役割を担っています。

☞ 昔の給食は、どんな内容だったのでしょか

ミルク…牛乳ではなく、牛乳から脂肪分を除いて粉にした「脱脂粉乳」に、砂糖などを加えて温めたものでした。栄養はありましたが、独特のにおいと味であったことから、あまり人気がなかったようです。（昭和20～30年代）

コッペパン…エネルギーを補うため、大きなコッペパンが定番でしたが、「食べきれない…」という声もありました。

揚げて砂糖やきなこを付けた「揚げパン」にして提供されました。（昭和25年頃～）

ソフトめん…うどんとスパゲティーの中間のようなめん、ミートソースやあんかけなどをかけて食べられていました。

（昭和38年頃～）

※ 「ご飯（米飯）」が本格的に提供されるようになったのは、昭和50年代以降のことです。

くじら料理…昔は低価格であったため、よく給食に登場しました。硬くておいが強めであったため、食べやすく工夫された調理で提供されていたようです。（昭和20年～50年代）

1月の給食目標

寒さにまけない食事をしよう

